

THE FRONTIER TIMES Report

名古屋大学 農学部へ推薦合格！

今年の4月に地元の名古屋大学の農学部に進学する名古屋国際高校(中高一貫コース)卒業生の堀田幸奈さん。理系の学部を目指したきっかけや将来の進路についての抱負をうかがいました。

FT:名古屋大学の推薦入試はどのようなものでしたか？

堀田さん:今年の名古屋大学農学部の推薦入試では、従来の入試に加えて面接が導入されましたので、事前に提出した志望理由書などを元に複数の先生方から口頭試問を受けました。

FT:農学部を志望した理由は何ですか？

堀田さん:高校生になったばかりの頃は薬学部に興味があったのですが、大学のオープンキャンパスで敷地内にある植物園を訪れた時に、自分があらためて植物に興味があるなと気がついたことがきっかけだったと思います。一般的には、植物の分野で進学先を考えると、理学部や農学部が挙げられますが、理学部の中でじっくりと理論的に学びたいというより、むしろ植物の栽培方法や成長

方法についての実践的な学びに憧れていましたね。

FT:植物に興味を持ったきっかけはあるのですか？

堀田さん:実家で祖父が家庭菜園をやっている手伝っていた経験もあって小さい頃から園芸が好きだったことも関係していると思います。

FT:志望理由は身近にあったんですね。まだ早いかもしれませんが、将来の進路はどう考えていますか？

堀田さん:農学部の大学院には生命農学研究科がありますので、研究室もそのままですらでければ進学したいと考えています。

FT:名古屋国際出身の理系女子として、これからも頑張ってください。



過去9年間の大学合格実績 (平成29年3月25日現在)

自らの進路を切り拓いた名古屋国際のOB・OGの進路実績は後輩への大きなエールとなり、次へと繋がっています。最新情報は本校ホームページ(大学合格実績)からご覧ください。

THE	SGU	分類	合格大学	2017	2016	2015	2014	2013~2009
60位		海外	The University of Queensland(豪州)		1			1
88位		海外	University of Glasgow(英国)					1
130位		海外	University of Birmingham(英国)				1	1
301-350	SGU-A	国立	名古屋大学	1		1		2(1)
401-500	SGU-A	国立	筑波大学					1(1)
401-500	海外		Chung-ang University(韓国)	1		1		
501-600	海外		Montana State University(米国)					1
501-600	海外		Sogang University(韓国)					1
601-800	SGU-A	私立	慶應義塾大学				2	1
601-800	SGU-A	私立	早稲田大学	2	1			
601-800	国立		名古屋工業大学					3
601-800	公立		名古屋市立大学	1				
601-800	私立		東京理科大学					4(1)
601-800	私立		近畿大学				3	1
801+	SGU-B	私立	上智大学	1	3	1		2
801+	SGU-B	私立	法政大学		1	1		4(1)
801+	SGU-B	私立	明治大学	1		1		5
801+	SGU-B	私立	立命館大学	3	2	2	4(1)	8
801+	SGU-B	私立	関西学院大学	2	4		1	5(2)
801+	私立		同志社大学	2	2		1	2
801+	私立		関西大学					1
	SGU-B	国立	お茶の水女子大学	1				
	SGU-B	国立	東京藝術大学					1(1)
	SGU-B	公立	国際教養大学				1	1(1)
	SGU-B	私立	立教大学	3		1		
	SGU-B	私立	東洋大学	1	(1)			
	SGU-B	私立	立命館アジア太平洋大学	4	3	1	1	6
	SGU-B	海外	Wyoming University(米国)					2
	海外		University of Nebraska Omaha(米国)	1				
	海外		Hongik University(韓国)	1				
	海外		North Central College(米国)	1				
	海外		Orange Coast College(米国)	1				
	海外		SUNY Central College(米国)	1				
	国立		山梨大学				1	1
	国立		愛知教育大学					1
	国立		滋賀大学				1(1)	1
	国立		山口大学				1	1
	公立		愛知県立大学	2	3			2
	公立		愛知県立芸術大学	1	1			2
	私立		青山学院大学	4		1	2	3(1)
	私立		芝浦工業大学					5(1)
	私立		専修大学				1	2
	私立		日本大学	2	3		2	7
	私立		南山大学	5	2		4(1)	14
	私立		名城大学	3	1		7(2)	3
	私立		愛知医科大学					1
	私立		藤田保健衛生大学					1
	私立		愛知学院大学(歯・薬)	3	3	2	1	5

()は過年度生の数(内数)

Feature

国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP) 世界に羽ばたく第1期生の実績をレポートします。

目標に向かって走り続け、
あっと言う間に過ぎていった3年間

「時間」に追われる毎日だったけれど、とても充実した3年間でした。本校のIBDP第1期生は、PreIBDPを含めた3年間を、達成感に満ちた笑顔で振り返ります。教科ごとに数多くのレポートやエッセイが課せられ、ボランティアなど課外活動も豊富なIBDPのカリキュラム。「常に取り組む課題がたくさんあり、『目の前の学びに集中して、気づいたら1日が終わっている』という感覚の連続でした」と話すように、がむしゃらに走り続けた3年間。いくつも壁を乗り越え、目標を実現した生徒たちの表情には、世界水準の国際教育カリキュラムを修了した自信がみぎざっています。

IBDPを通じた成長を尋ねると、さまざまな答えが返ってきました。「授業はディスカッションが中心なので、自分の意見

をしっかりと伝えられるようになりました。英語でエッセイを書いたりプレゼンテーションをすることで、英語でのコミュニケーションにも自信が生まれました」と笑顔を見せるのは山下綾香さん。部活動と両立させるため、早朝や休日に自主練習に取り組むなど、IBDPへの挑戦はタイムマネジメントや自己管理能力を磨くことにもつながったといいます。また、IBDPが「自作り」のための3年間になった」と話すのは隅田和城君です。「IBDPの学習スタイルで大切にされているのは、ものごとを多面的に捉えること。議論を通じているいるな考え方に触れ、正解が一つだけではないと気づき、さまざまな視点から自分の意見を導き出せるようになりました」と誇らしげな隅田君。多面的に考えられる人材は、IBDPが理想のひとつに掲げる学習者像であり、視野の広がりは進路選択の場面でも大いに役立ったといいます。

そして「自分が想像もしない、新しい視点や意見を知ることが純粋に面白かった」と口を揃えるのは、横山明子さんと錢智允さん。IBDPの学びを重ねるにつれて、日常会話でもディスカッションの機会が増えるようになり、「異なる意見に対して寛容になり、違いを受け入れて理解できるようになった」(横山さん)、「違いを受け入れた上で、自分の考えを発信することの大切さを学んだ」(錢さん)という言葉が示すように、さまざまな体験を通して、生徒たちは自分の意識や行動の変化を感じているようです。



▲隅田和城君(国際教養科卒業生)

いくつも壁を乗り越え、
最後までやり遂げた「自信」と「誇り」

昨年11月には、国際バカロレアディプロマプログラム(IBDP)の最終試験に臨みました。IBDPの修了資格や試験スコアは、世界各国にある多数の大学で入学基準に認定されているほか、国内でも入学基準として採用する大学が年々増加しています。横山さんと錢さんは、IBDPの修了資格を利用して、早稲田大学・国際教養学部の国外選考試験を受験。見事に合格を勝ち取りました。山下さんも国際的なカリキュラムの修了者を対象とした、国内の大学の9月入学試験への挑戦を予定。また、隅田君は海外の大学で絵画を学ぶため、来年2月の入学に向けて準備を進めており、IBDPを受講・修了することは、進路の選択肢を大きく広げています。

IBDP第1期生の頑張りについて、IBDP担当のジョナタス・カパーニ先生は「いろ



▲早稲田大学合格 錢智允さん(中高一貫コース卒業生)



▲早稲田大学合格 横山明子さん(国際教養科卒業生)

いろな困難も経験しましたが、いつも開拓者精神で立ち上がり、諦めず最後までやり遂げてくれました。主体的に学び、たくましく成長してくれた生徒たちを誇りに思います」と称えます。身近に見本が存在しない「先駆者」ならではの苦労も、「覚悟の上で挑戦した」と胸を張る生徒たち。IBDPのネットワークを利用した他校との交流で感じた改善点も、積極的に学校へ意見を投げかけました。「自分たちが中心となって、名古屋国際高校のIBDPを創り上げたという充実感があります。仲間がいたから頑張ることができたし、『どんなことだって、やればできるんだ』と自信になりました」。1期生のひたむきな努力が財産となり、名古屋国際高校のIBDPは、今後さらに質の高いものになっていくはずだ。

本校で2015年にスタートした国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)。世界水準の国際教育プログラムに挑戦した第1期生たちが、2年間の濃密な学びの集大成として昨年11月の最終試験に臨みました。

IBDPの修了資格を手に、卒業後は新たなステージへと羽ばたいていく「フロンティアたち」が、IBDPでの学びを振り返り、後輩に向けてメッセージを語ってくれました。

「本気になれば何だってできる！」
卒業後のIBDP第1期生の活躍に期待

貴重な経験を重ね、自ら道を切り拓いてきたIBDP第1期生の言葉は、後輩たちにとって良い「道しるべ」となります。「私は周りと比較して英語が得意ではなかったけれど、目標に向かって努力を続けることで修了資格を取得できました。IBDPは決して英語力がすべてのプログラムではないので、『英語が苦手だから』という理由でチャレンジを諦めないでほしい」と話す山下さんは、「本気になれば何だってできる！」と力強く激励。錢さんも「IBDPの学習スタイルをよく理解して受講すれば、英語に自信がなくても『やる気』でカバーできます。自分の個性とIBDPの学びが合っているか、事前にしっかりと考えることが大切だ」とエールを送ります。また、より実践的なアドバイスをしてくれたのは隅田君です。「IBDPでは課題に対して興味を持つことが大事。自分が苦手なことも、視点を変えることで意識や行動も変わるので、迷っても足を止めず動き続けてください」。横山さんも、自身の反省をふまえ「今できることを先延ばしにして、時間を無駄にしないよう、一日一日を大切にしてください」と温かい言葉で背中を押します。

「IBDPをやり遂げたという誇りを持って、失敗を恐れず、いろいろなことにチャレンジしたい」と横山さんが話すように、卒業後の新たなステージでも、名古屋国際高校のIBDPで培ったことを活かした飛躍を期する4人。「大学では国籍や文化の違いを超えてたくさんの人と関わり、

いろいろな考え方に触れ、英語以外の言語も学んでみたい」(山下さん)、「いろいろな感性を持った人と出会い、たくさんの方から刺激を受ける。自分らしく生きられる場所を見つけたい」(隅田君)と、一人ひとりが期待に胸を膨らませています。

そして、「何よりも大きな財産は、切磋琢磨しながら高め合ってきた9人の仲間ができたこと。皆と会って本当に良かった」と目を輝かせた錢さん。明るいつれづな未来へ羽ばたいていく生徒たちに目を細め、「たくさんの方のサポートがあったけど、そこから得られたこともたくさんあったはず。知は苦悩して得るもの。卒業後もIBDPに取り組んだ高校生活のことを忘れず、自分を高めていってください。皆さんの活躍を心の底から応援しています」とジョナタス先生はエールを送ります。



▲山下綾香さん(国際教養科卒業生)



▲内海繁奈さん 国内大学の秋入学に向けてIBDPを履修中



▲太田るい君 ハンガリーの大学入学に向けてIBDPを履修中



▲澤村諒太郎君 University of Nebraska Omaha(米国)合格



▲水野真菜美さん 志望大学に向けてIBDPを履修中



▲向井拓実君 立教大学合格

IBDPの学びについて [IBDP担当 ジョナタス・カパーニ先生]



IBDPは自分自身が試される難しいカリキュラム。やり遂げるには大変な努力が求められますが、非常にやりがいのあるプログラムです。社会で活躍するために必要なライフスキルが身に付けられる一方で、エッセイやレポートなど課題も多く、効果的に学ぶためにはタイムマネジメント能力が求められます。

受講を検討している生徒に意識してほしいのは、「どのような生徒を育てるプログラムなのか」というIBDPの教育目標です。単に英語力を磨くという目的での受講は勧めません。日本ではまだ受け皿となる大学の数が少なく、IBDP

の受講が「チャンス」にも「リスク」にもなり得るため、IBDPの学習スタイルが自分に合っているかどうかを含め、慎重に受講を検討してください。

第1期生が卒業を迎え、これからは本校のIBDPプログラムは、進化を続けることが大切です。IBDPへの準備段階としてPreIBDPを改善するなど、より充実したカリキュラムの構築に向けて、我々もさまざまな面から改善に取り組んでいます。IBDP受講生の学習姿勢が全校生徒に好影響を与えることで、名古屋国際中学校・高等学校を輝く学校にしていきたいと思ひます。